【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(　久居高等学校　)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		○ 校訓「意欲・誠実・創造」の理念のもと、学校生活の充実と確かな進路保障を通じて生徒・保護者・地域から信頼される魅力ある学校づくりを推進し、地域や社会に貢献する人材の育成を目指します。
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	「自律し、自立する大人へ」 ○ 基本的生活習慣・社会規範を身に付け、何事にも意欲的、誠実に取り組み、社会の一員として自ら主体的に判断し、責任ある行動を取る生徒 **〔自律する力〕** ○ 社会の変化に対応するため、自らを高めようと、日々の授業を大切にし、家庭学習等を通じ学力の定着と向上に取り組む生徒 **〔学力=聴く力・読み取る力・考える力・書く力・話す力〕** ○ さまざまな教育活動を通じて、互いを尊重し合い、違いを認め合うことのできる心豊かな生徒 **〔自他理解力〕** ○ 学校行事や生徒会活動、部活動等の自主的活動に積極的に参加し役割を担うことにより責任感と協調性を身に付け、地域や社会に貢献できる生徒 **〔 やり抜く力・協働する力〕**
	ありたい教職員の姿	○ 率先して教育活動に取り組む意欲と活力ある教職員集団 ○ 生徒が「わかる」「力がつく」を実感できる授業を実践するため、公開授業や教科内・校内での改善活動を積極的に推進する教職員集団 ○ 教育に携る者としての自覚と規範意識を持ち、生徒への深い愛情に基づく教育を実践するとともに、同僚と協働することができる教職員集団

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	＜生　徒＞ 充実した授業を受けたい。活発な部活動をしたい。進路希望を実現したい。 ＜保護者＞ 安全・安心の学校生活。卒業後の進路保障。モラルの向上。社会人として自立できる力を育てて欲しい。 ＜地　域＞ 公共心とマナーの育成。地域の普通科高校として信頼できる教育を推進して欲しい。	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	＜家庭＞ 毅然とした生活指導を行いながらも、子どもの心に配慮した教育を行なって欲しい。 ＜中学校＞ 学校の様子、卒業生の近況報告、入試情報等を知らせて欲しい。 ＜地域社会＞ 交通マナー、公共の場でのマナーを守らせて欲しい。	＜家庭＞ 本校教育方針への理解と協力。特に家庭でのしつけの部分を強化して欲しい。 ＜中学校＞ 基礎学力の定着。連携を密にとりながら信頼関係を構築していきたい。 ＜地域社会＞ 本校の教育活動を理解し、協力してもらいたい。
(3)前年度の学校関係者評価など	○ 久居高校の生徒は挨拶をしてくれる生徒も多く、地域の評判は悪くない。久居高校の良さを発信し、さらなる発展を期待している。 ○ ホームページでの発信は、普段の学校生活がわかるような内容や動画で視覚的に訴えるなどの工夫が必要である。 ○ 子どもの責任ではあるが、配付されたプリントが保護者の手元に届かないことがある。保護者にもメール等で連絡してもらえると、子どもに確認できる。 ○ 登下校時に保護者の送迎が多く、交通事故等が心配である。送迎時の乗降について、定期的な呼び掛けを行うなど、安心・安全な学校づくりを推進していただきたい。	

(4)現状と課題	教育活動	○ 教科学習に対し苦手意識が強い生徒、目標達成に向け地道な努力を重ねることが苦手な生徒も多い。自ら学ぶ意欲を育てるための授業改善・授業力向上が求められる。 ○ 多様な生徒への対応が求められる中、学校生活や授業を通して生徒との関わりを密にし、生徒理解を深め、生徒の成長を促す取組の継続が必要である。 ○ 基本的な生活習慣が身についていない生徒にルールを守ることの大切さを伝えるとともに、生徒自身のルールメイク意識の向上を図ることで規範意識を育てる。 ○ 外部の協力を求めながら、生徒の進路選択、進路実現に向けた支援のための研修、セミナー等の充実を継続していく。
	学校運営等	○ 授業改善・授業力向上については、授業見学だけでなく研究授業や協議を行うことで、また生徒の人権が尊重される授業づくりの視点を踏まえた取組は現職教育等を行うことで、本校の目指す教育についての共通認識を持つ必要がある。 ○ 進路多様校としての久居高校の魅力が中学生や保護者に伝わるよう、普段の学校生活がわかるような内容や動画で視覚的に訴えるなど、中学生が本校の魅力について、理解を深めることができるよう情報発信に力を入れる。 ○ 具体的な活動・成果指標を客観的に計り、改善点を次年度に提示するシステムの構築が必要である。 ○ 行事・業務等のスクラップ＆ビルドをはかることで、多忙感を解消し、生徒と向き合う時間を確保するとともに、過重労働時間の削減を図る。

３ 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	１．校訓「意欲・誠実・創造」を実践することができる生徒を育む教育活動の推進 ○ 基本的生活習慣の定着・向上と規範意識を醸成し、社会生活において求められる力を育むとともに、互いを尊重する心、思いやりの心を育む生徒指導に取り組みます。 ２．単位制・コース制の特長を生かし学力の定着・伸長、言語活動向上への取り組みを推進 ○ 生徒の多様な進路希望を実現するため各コースの取組の充実を図ります。 ○ ＩＣＴの活用等による各コースの学びの充実を図ります。 ○ 学習習慣の確立・定着を通じて社会生活の基盤となる学力の向上を図ります。 ３．進路に応じたコースと選択科目の設定、少人数授業により、一人一人の進路実現に向けたキャリア教育を推進 ○ スポーツコースは、３年間を通して体育の専門科目をカリキュラムに取り入れた授業と校外実習等により、運動能力を生かし多様な進路が実現できるようサポートします。 ○ 普通コースは、「少人数授業」によるきめ細かな学習指導と授業選択モデルの設定により、４年制大学・短期大学・専門学校への進学、就職（公務員試験対策含む）など多様な進路希望の実現をサポートします。 ○ チャレンジコースは、国公立大学、難関・中堅私立大学等への進路実現に向けた学習指導をします。 ４．教育活動全体を通じて人権教育を推進 ○ 人権が尊重される学校づくりの推進により、自己存在感、共感的人間関係、自己選択権・決定権の育成を図ります。 ○ 生徒、教職員、保護者が差別につながる言動に出会ったときに気付くことができるよう、個別の人権問題にかかわる実践力を育むよう取り組みます。 ５．人間力の向上を図る取り組みの推進 ○ 学校行事や部活動、生徒会活動、ボランティア活動等を通じて責任感、協調性、礼儀、マナーを身に付け人間力の向上を図ります。
学校運営等	１．教職員の資質向上 ○ 学習指導要領と観点別評価、高大接続改革、ＩＣＴ教育への対応 ○ 授業参観、教科会の活用を通じて教職員の授業力の向上に取り組む。 ２．地域への発信 ○ 広報活動の体制と内容を改善・充実させる。 ３．教職員の働きやすい環境づくり

	○ 総勤務時間を縮減し、働きやすい環境づくりを推進する。 ○ 部活動指導の工夫・改善、「部活動ガイドライン」への対応。 ○ 不祥事防止を他人事として捉えず、自分の問題として捉え、信頼される学校であるよう行動する。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	○ 高校生活に明確な目的意識を持ち、授業、学校行事等に主体的・積極的に参加するなど目標に向かい意欲的に取り組める生徒 ○ スポーツ・文化活動やボランティア活動、人権活動または国際交流等に積極的に取り組んでおり、入学後もそれらの活動に継続して意欲的に取り組める生徒 ○ 国公立大学や難関・中堅私立大学等への進学を目指し、各教科の学習に意欲的・積極的に取り組める生徒

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組　「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1. 校訓「意欲・誠実・創造」を実践することができる生徒を育む教育活動を推進します。	【1学年】 ○基本的な生活習慣の定着など、人間力を高めるよう取り組む。 (活動指標) ・授業を大切にするよう、指導を行う。授業の準備を早めに行い、授業遅刻をしないよう指導を行う。 ・学校行事に積極的に取り組むよう指導する。 【2学年】 ○授業や学校行事に前向きに取り組み、一人一人が健全に成長し、周りの人のことも考え行動できるようにし、卒業後に自立と自律ができる力を身につけさせる。 (活動指標) ・一人ひとりが社会規範を正しく認識し、登校遅刻・授業遅刻・授業の中抜けをせず、頭髪服装等の校則を遵守できるように支援していく。 ・HR 活動や学校行事に積極的に取り組ませる ・SHR、LHR、個人面談、総合的な探究の時間、学年集会、「学年だより」、生徒指導部や保健部との連携などを通して指導を展開していく。 (評価指標) ・2学年学校遅刻数について、対前年度比で5パーセント減を目指す。 ・年度末に生徒アンケートを実施し、HR 活動や学校行事の満足度85%以上を目指す。 【保健部】 ○感染症対策を継続するとともに、充実した学校生活の基礎となる基本的生活習慣を大切にする指導を行	(年度末および適宜記載)	

2. 単位制・コース制の特徴を生かし学力の定着・伸長、言語活動向上への取り組みを推進します。	い、学年団や各分掌と連携して指導にあたる。(保健) 〇様々な理由で悩みを抱える生徒、保護者の話に耳を傾け、学年団・各分掌と連携して支援にあたる。必要に応じてスクールカウンセラー・ソーシャルワーカー・高校生活スペシャルマネージャーと連携して指導にあたる。(教育相談) (活動指標) ・保健だより等により、基本的生活習慣の大切さを周知する。 ・保健室利用時の問診等を通じて生徒自らが生活習慣を改善できる力を養う。また、検診結果が保護者に届くよう伝え方を工夫する。 ・学年だけでなく、人権や生徒指導部、進路指導部との定期的な情報交換を行う。 ・高校生活スペシャルマネージャーによる職員研修を実施する。 (評価指標) ・歯科検診で受診勧告をした生徒の受診報告書の回収率10%増を目指す。 ・1か月に1回以上、他の分掌との情報交換を行う。 ・職員研修後に満足度調査を行い、満足度70%以上を目指す。 【スポーツコース】 〇スポーツを通じて自他の課題を発見し、合理的、計画的に解決する能力を養う。 (活動指標) ・授業の開始時のめあての確認を必ずする。 ・映像などを使い、自分や他者の動きを確認させる。 ・グループで練習法や作戦などを確認させ、考えを共有させる。 ・授業の最後に振り返りをする。 (評価指標) ・学年末にアンケートを実施し、生徒満足度80%以上を目指す。 【チャレンジコース】 〇チャレンジコースの系統的な指導体制を充実させ、確実な学力を身につけさせると共に、チャレンジコース教科担当教員の進学指導力を向上させる。 (活動指標) ・各学年、チャレンジコース教科担当者会議(模試分析など)を定期的に実施する。 ・課外授業やICT等を活用しながら、より充実した教科指導体制を構築していく。 ・学習研究部とタイアップした指導により1年次から系統的指導を行う。 (評価指標) ・GTZ や偏差値などの客観的数値を見ながら個別指導や取り組みの改善を行う。		

3. 多様な進路に応じた授業選択モデルと選択科目の設定、少人数授業により、一人ひとりの進路実現に向けたキャリア教育を推進します。 **4. 教育活動全体を通じて人権教育を推進します。**	【3学年】 〇生徒一人ひとりに対して、将来を見据えてきめ細かな進路指導を行う。 （活動指標） ・進路先でやりがいを持ち続けられるよう、学力および自己管理能力を向上させる。 ・個人面談の充実を図る。 （評価指標） ・模試や基礎力診断テストの結果において、前回比・前年比で数値の向上を目指す。 ・振り返りのアンケートにおいて成長度や満足度がそれぞれ80%以上を目指す。 【進路指導部】 〇生徒の多様な進路希望にきめ細かく対応するため、各学年団、各分掌、各教科と連携して進路指導の内容を充実させ、生徒満足度の高い進路指導を展開する。 （活動指標） ・各セミナー別指導で3年担任団と協働し、情報を共有して生徒の学習を支援することで生徒の進路実現をサポートする。 ・課外授業や面接、志望理由書作成の指導に多くの教員が関わることで、生徒への個別指導を充実させる。 ・進路指導部の考え、取みや悩み・進学就職情報を職員会議等で発信する。各分掌との連携を大切にする。 （評価指標） ・年度末に3年生全員への進路指導満足度調査を実施すると共に、各セミナー指導に対する調査を実施し、満足度90%以上を目指す。 【人権教育推進担当】 〇あらゆる機会(授業・HR 活動・部活動・日常での関わりなど)を通して生徒の人権を尊重することにより、人権教育を日常の教育活動としていくことをめざす。その中でも特に「生徒の人権が尊重される授業づくりの視点」を持ち、授業を通して生徒と“向き合う”ことを実践する。 （活動指標） ・「生徒の人権が尊重される授業づくり」の取組の検証 ・LHR を活用した人権学習の取組の検証 ・人権侵害事象発生時における対応力の検証 （評価指標） ・「人権教育カリキュラム」に基づいた取組を実践し、推進度の達成率が 80%以上になることをめざす。 ・年度末の「生徒アンケート」において学習達成度 80%以上をめざす。		

5. 人間力の向上を図る取り組みを推進します。	【生徒指導部】 〇遅刻の防止、問題行動や課題の未然防止教育、早期発見対応により、生徒指導件数の減少に努める。 （活動指標） ・生徒会と連携し生徒と教職員が共にルール作りを推進する。 ・日常における小まめな声かけ等を通じ、問題行動や課題の未然防止、早期発見対応に繋げる。 ・NG カード指導により、日頃から社会規範を身に付けることを意識した学校生活にする。 （評価指標） ・生徒会との対話を学期に一回以上行う。 ・月一回継続指導者に声かけをする。 ・生徒指導件数が前年比10%減を目指す。 ・NG カード指導件数の年度初めと年度末の比較を行う。		
改善課題			
（年度末に記載）			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

（例）「組織運営」「研修（資質向上の取組）」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組　「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1. 教職員の資質向上に努めます。 **2. 地域への発信を充実させます。**	【教務部】 〇授業参観、教科会の活用を通し教職員の授業力向上に取り組む。 〇各科目における ICT を活用した授業を推進し、生徒の学習力、表現力向上に取り組む。 （活動指標） ・全教員が授業を通して、生徒の学力向上、人間力向上に努める。 ・Chromebook を活用した調べ学習やプレゼンテーション、小テストなどを授業等で進める。 （評価指標） ・全教員の授業参観及び校内研修参加回数平均3回以上。 ・生徒の授業満足度 80%以上。 ・ICT 機器を有効に活用できた教員 80%以上。 【総務部】 〇中学生に対して魅力あるメッセージを届けられるように、オープンスクールの実施内容等の充実を図る。 （活動指標） ・オープンスクールにおいて本校のコース制や部活動等について、わかりやすく伝える。	（年度末および適宜記載）	

3. 教職員の働きやすい環境作りに取り組みます。	・昨今の社会情勢を考慮し、効率のよい実施内容にする。 （評価指標） ・アンケートにおいて、「以前よりも本校に興味が出た」項目で80%以上を目指す。 【管理職】 〇過重労働時間の減少を図る。 （活動指標） ・月2回の定時退校日を設定する。 ・会議資料の精選や teams を活用し、会議時間の短縮を進める。 ・45時間以上の過重労働職員の数を0人とする。 ・休暇取得を増加させる。 （評価指標） ・月2回の定時退校日に定時退校できた職員の割合を80%以上にする。 ・放課後に開催された会議のうち、60分以内に終了した会議の割合を100%にする。 ・休暇取得24日以上、うち年休取得14日以上を目指す。 ・時間外在校時間、月平均 30 時間以内を目指す。 ・年360時間を超える時間外労働者の延べ人数を0人とする。 ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数を0人とする。 〇部活動休養日を設定する。 （活動指標） ・部活動休養日を原則週1回土・日（試合がある場合は翌週）に設定する。 （評価指標） ・週1回設定できた部活動の割合を100%にする。 〇不祥事を根絶するため、職員への啓発を図る。 （活動指標） ・今年度作成した「信頼される学校であるための行動計画」に則った活動・点検を行う。 （評価指標） ・「信頼される学校であるための行動計画」の自己評価で「できた」と答えた職員の割合を100%にする。		
改善課題			
（年度末に記載）			

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	（年度末に記載）

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	（年度末に記載）

学校運営についての改善策	（年度末に記載）